

(令和7年度予算分) 地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書 (市町村分) 個票

自治体名 **長崎県長崎市**
 本事業の担当部局名 子育てサポート課中央総合事務所東総合事務所南総合事務所北総合事務所

事業メニュー	結婚_妊娠_出産_子育てに温かい社会づくり_気運醸成事業		
区分	重点メニュー		
関連事業メニュー	3.2.1 自治体間連携を伴う結婚、妊娠・出産、子育てに温かい社会づくり_気運醸成		
個別事業名	子育てふれあい支援事業	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続
実施期間	令和8年4月1日	～	令和9年3月31日
	事業開始年度	平成9年度	
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け	<p><自治体における少子化対策の全体像>※全事業共通 長崎市では若い世代を中心とした転出超過に歯止めがかかっておらず、少子化が加速している状況である。その要因のひとつとして、結婚を希望しているものの交際や結婚に至っていない方の存在があることや女性の未婚率が高いことが考えられるため、結婚の希望を叶えるための取組みを重点的に進めていく。 また、子どもを育てることについて楽しいと思える保護者がより多くなるように、家事・育児等の不安を抱えている子育て家庭や、子ども、妊産婦等の実態やニーズの把握を行い、その方々に対する寄り添った支援を行う。</p> <p><本個別事業の位置付け> 妊娠・出産・子育てに関する正しい知識の普及や、男性の育児参加の推進、子育ての仲間づくりの機会の提供による育児の孤立防止等のため、妊娠・出産期、子育て期に応じた各種教室を開催し、子育て環境の充実を図るもの。地域の身近な場所に親子遊びの場を開設し、親が子どもの遊びや育児について学び、親子の交流により仲間を作ることで、自宅に閉じこもることがないような支援と児童の発達を促進する。</p>		
個別事業の内容	番号	項目	内容
	1	両親学級の実施	<p><市の役割> 両親学級の実施にあたり、県が推進するココロねっこ運動や子どものための「子ども時間」の周知・啓発を行うことで、社会や地域全体で子どもを育てる意識・気運の醸成や共家事・子育てを推進する。 (各総合事務所4か所で実施) 第1子を妊娠中(妊娠34週未満)の妊婦とパートナーを対象に、妊娠中の栄養や過ごし方、出産・育児についての情報提供と、妊婦体験や抱き方等の体験を行うことで、両親ともに積極的に育児参加できるよう支援する。</p>
2	育児学級等の実施	<p><市の役割> 各種教室の実施にあたり、県が推進するココロねっこ運動や子どものための「子ども時間」の周知・啓発を行うことで、社会や地域全体で子どもを育てる意識・気運の醸成や共家事・子育てを推進する。 (各総合事務所4か所で実施)</p> <p>・育児学級(中央・東・南・北総合事務所) 乳児とその保護者を対象にした育児に関する各種健康教室を実施し、正しい知識の普及と保護者同士の交流をはかり、育児の孤立化を防ぐよう支援する。</p> <p>・ツインズ広場(中央・東総合事務所) 双子以上を育てている親や妊婦を対象に、育児相談、親子遊び、交流会を行い、悩み事の解決や仲間づくりを支援する。</p> <p>・離乳食・幼児食教室(中央・東・南・北総合事務所) 子育て中の保護者が調理実習を通して、離乳食の具体的な調理方法、進め方または、小食・偏食の子に対する調理方法や知識を習得する。また、保護者の離乳食・幼児食に対する不安を解消し、育児支援の一助とする。</p> <p>・食物アレルギー座談会(中央総合事務所) 食物アレルギー児の保護者同士の情報交換の場を設け、食物アレルギーに関する情報を提供することで、不安の解消及び育児支援の一助とする。</p> <p>・地域イベントにおける健康教育(東・北総合事務所) 地域の関係機関と連携した地域イベントの実施・参加により、子育て家庭と地域の方との交流や健康・育児に関する知識の普及に努める。</p>	

3	お遊び教室の開催	地域のふれあいセンターや公民館などで、概ね月に1, 2回、午前の時間帯にお遊び教室を開催。運営は、民生・児童委員や主任児童委員、ボランティア、保育園などと子育てサポート課が共同で実施。令和6年度(開催箇所: 32箇所、開催回数: 397回、参加者数: 9,203人) 令和7年度参加人数見込7,600人(令和8年1月末時点の参加者6,292人) 令和8年度参加予定人数7,600人(会場変更等の動きはないため、令和7年度見込みと同等とする)
<p><過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠出生数の減による参加者の減、育児学級の継続参加者の減がみられたため、個別に再度案内するなど参加勧奨に努めた。 ・両親学級については、参加者のニーズを把握し、体験実習等の内容の充実を図った。 ・育児学級等については、出生数の減等の実情を踏まえ、会場及び実施回数の見直しを行うこととし、地域の子育て支援センター等への案内を行なうことで、引き続き子育ての負担感や不安軽減を図ることとする。 ・少子化の進行や女性の就労率の上昇、保育施設への就園率上昇など、子どもや子育て家庭を取り巻く環境は大きく変化しており、お遊び教室においても、参加者数の減少と参加者の低年齢化という課題に直面している ・市内全地区に子育て支援センターが設置されたことにより、お遊び教室の役割と存在意義を再検討する時期に至っており、各地域におけるお遊び教室の現状や課題を洗い出すとともに、お遊び教室の今後の在り方(継続開催・規模縮小・事業の廃止)を総合的に検討していく。 		

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
	子どもを育てることについて楽しいと思う時が多い未就学児保護者の割合		%	70.0 (R8年度)	67.6 (R5年度)
参考指標 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績値(時点)	
	合計特殊出生率			1.25 (R5年)	
	婚姻件数		件	1237 (R5年)	
	婚姻率			3.1 (R5年)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標	KPI項目		単位	目標値(時点)	現状値(時点)
	番号	項目			
	(アウトプット)				
	①	両親学級参加者数	人	682 (R8年度)	589 (R6年度)
	②	育児学級等参加者数	人	4,155 (R8年度)	5,017 (R6年度)
	③	お遊び教室参加者数	人	15,327 (R8年度)	9,203 (R6年度)
	④				
	⑤				
	(アウトカム)				
	①	交付金事業に対する事業対象者(住民等)の満足度(該当事業に限る。)	%	100 (R8年度)	-
	②	希望どおりの結婚に向けて後押ししてくれたと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%	-	-
	③	結婚、妊娠・出産、子育てに前向きになったと感じた人の割合(該当事業に限る。)	%	100 (R8年度)	-
	④				
⑤					
⑥					